

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2011-105393

(P2011-105393A)

(43) 公開日 平成23年6月2日(2011.6.2)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
B 6 5 D 77/20 (2006.01)	B 6 5 D 77/20	3 E 0 6 7
B 6 5 D 43/10 (2006.01)	B 6 5 D 43/10	3 E 0 8 4

審査請求 有 請求項の数 3 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号	特願2011-47562 (P2011-47562)	(71) 出願人	593215829
(22) 出願日	平成23年3月4日 (2011.3.4)		アテナ工業株式会社
(62) 分割の表示	特願2004-50319 (P2004-50319) の分割	(74) 代理人	岐阜県関市下有知 5 6 0 1 番地の 1 100079050 弁理士 後藤 憲秋
原出願日	平成16年2月25日 (2004.2.25)	(72) 発明者	後藤 康弘
(31) 優先権主張番号	特願2004-26013 (P2004-26013)		岐阜県関市下有知 5 6 0 1 番地の 1 アテ ナ工業株式会社内
(32) 優先日	平成16年2月2日 (2004.2.2)	(72) 発明者	波多野 修
(33) 優先権主張国	日本国 (JP)		岐阜県関市下有知 5 6 0 1 番地の 1 アテ ナ工業株式会社内
		F ターム (参考)	3E067 AB01 BA02A BB14A BB15A BB16A BC02A BC07A EA32 EB27 EE59 FA01 FC01 GD10

最終頁に続く

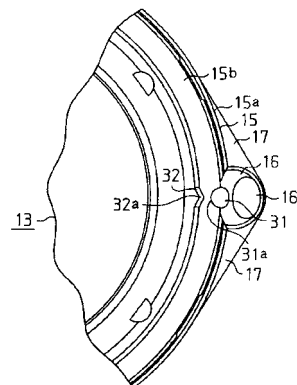
(54) 【発明の名称】 容器

(57) 【要約】

【課題】蓋体を容器本体に対する閉鎖状態から開放させる場合、蓋体の嵌合部を片手操作にて容器本体のフランジ部への外嵌状態から簡単に離脱させることができ、蓋体を容易に開放させることができる容器を提供する。

【解決手段】開口縁にフランジ部 1 4 が形成された碗状の容器本体 1 2 と、容器本体 1 2 に対する閉鎖状態でフランジ部 1 4 に外嵌可能な嵌合部 1 5 を外周縁に有する円板状の蓋体 1 3 とを備えた容器 1 1 において、蓋体 1 3 の嵌合部 1 5 の周壁には、平面視において嵌合部から外側へはみ出しかつ外方へ向かって膨らむ屈曲部としての膨出部 1 6 と膨出部 1 6 の蓋体中央部側に該膨出部 1 6 の頂部よりも高い頂部を有しかつ該膨出部 1 6 より小さい小膨出部 3 1 が形成されているとともに、膨出部 1 6 の下端両側縁と嵌合部 1 5 の周壁下端縁との間には円板状蓋体 1 3 の外周方向に延びる平面視三角形形状の一對のヒレ部 1 7 , 1 7 が接続形成されている。

【選択図】図 4



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

上面を開口し、開口縁にはフランジ部（１４）が形成された合成樹脂シート製の椀状の容器本体（１２）と、その容器本体に開閉可能に設けられ、容器本体に対する閉鎖状態で前記フランジ部に外嵌可能な嵌合部（１５）を外周縁に有する合成樹脂シート製の円板状の蓋体（１３）とを備えた容器（１１）において、

前記蓋体の嵌合部の周壁には、平面視において前記嵌合部から外側へはみ出しかつ外方へ向かって膨らむ屈曲部としての膨出部（１６）と前記膨出部の前記蓋体中央部側に該膨出部の頂部よりも高い頂部を有しかつ該膨出部より小さい小膨出部（３１）が形成されているとともに、前記膨出部の下端両側縁と前記嵌合部の周壁下端縁との間には前記円板状蓋体の外周方向に延びる平面視三角形の一对のヒレ部（１７，１７）が接続形成されていることを特徴とする容器。

10

【請求項 2】

前記膨出部の外面には、その内部空間に向かって突出する窪み部（１６a）が形成されている請求項 1 に記載の容器。

【請求項 3】

前記膨出部に近接して、前記膨出部よりも前記蓋体中央側には、ノッチ状の凹部（３２）が形成されている請求項 1 または 2 に記載の容器。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】**

20

【0001】

この発明は、例えば食品マーケット等において、惣菜等の収容物を収容するのに使用される容器に関するものである。

【背景技術】**【0002】**

従来、この種の容器としては、例えば、合成樹脂シート製の容器本体の開口部に、合成樹脂シート製の蓋体を脱着開閉可能に取り付けるように構成したものが知られている。このような容器では、容器本体内に惣菜等の収容物を収容して、容器本体の開口部に蓋体を被覆装着したとき、蓋体を閉鎖位置に密封状態で確実に止着する必要がある。このため、この種の容器においては、容器本体の開口周縁にフランジ部が形成されるとともに、蓋体の外周縁に嵌合部が形成され、容器本体に対する蓋体の閉鎖状態で、嵌合部がフランジ部に外嵌されるようになっている。

30

【発明の概要】**【発明が解決しようとする課題】****【0003】**

ところが、この種の従来の容器においては、蓋体を閉鎖状態から開放させる場合、蓋体の嵌合部が容器本体のフランジ部に対して比較的強固に外嵌されているため、片手操作にて、この嵌合部をフランジ部から離脱させて蓋体を開放させるのが困難であるという問題があった。

【0004】

40

この発明は、このような従来の技術に存在する問題点に着目してなされたものである。その目的は、蓋体を容器本体に対する閉鎖状態から開放させる場合、蓋体の嵌合部を、片手操作にて、容器本体のフランジ部への外嵌状態から簡単に離脱させることができ、蓋体を容易に開放させることができる容器を提供することにある。

【課題を解決するための手段】**【0005】**

上記の目的を達成するために、請求項 1 に記載の発明は、上面を開口し、開口縁にはフランジ部（１４）が形成された合成樹脂シート製の椀状の容器本体（１２）と、その容器本体に開閉可能に設けられ、容器本体に対する閉鎖状態で前記フランジ部に外嵌可能な嵌合部（１５）を外周縁に有する合成樹脂シート製の円板状の蓋体（１３）とを備えた容器

50

(1 1)において、前記蓋体の嵌合部の周壁には、平面視において前記嵌合部から外側へはみ出しかつ外方へ向かって膨らむ屈曲部としての膨出部(1 6)と前記膨出部の前記蓋体中央部側に該膨出部の頂部よりも高い頂部を有しかつ該膨出部より小さい小膨出部(3 1)が形成されているとともに、前記膨出部の下端両側縁と前記嵌合部の周壁下端縁との間には前記円板状蓋体の外周方向に延びる平面視三角形形状の一对のヒレ部(1 7 , 1 7)が接続形成されていることを特徴とする容器に係る。

【 0 0 0 6 】

請求項 2 の発明は、前記膨出部の外面には、その内部空間に向かって突出する窪み部(1 6 a)が形成されている請求項 1 に記載の容器に係る。

【 0 0 0 7 】

請求項 3 の発明は、前記膨出部に近接して、前記膨出部よりも前記蓋体中央側には、ノッチ状の凹部(3 2)が形成されている請求項 1 または 2 に記載の容器に係る。

【 0 0 0 8 】

(作用)

この発明においては、蓋体を容器本体に対する閉鎖状態から開放させる場合、蓋体の嵌合部の外周に形成された屈曲部をフランジ部から離間する方向に屈曲させると、嵌合部をフランジ部に対する外嵌状態から簡単に離脱させることができる。よって、蓋体を閉鎖状態から至極容易に開放させることができる。

【 0 0 0 9 】

また、屈曲部が外方へ向かって膨らむ膨出部から構成したので、蓋体を開放させる際に、屈曲部をフランジ部から離間する方向へ容易かつ確実に屈曲変形させることができる。加えて、膨出部の蓋体中央部側に、その膨出部より小さい小膨出部を形成すれば、その小膨出部の外周縁を境にして蓋体が屈曲される。

【 0 0 1 0 】

さらに、屈曲部を構成する膨出部の外面に窪み部を設ければ、屈曲部の剛性を向上させて補強することができるとともに、意図しない変形を防止して、外観を向上できる。

【 0 0 1 1 】

さらに、膨出部あるいは小膨出部に近接して、蓋体中心側に、ノッチ状の凹部を形成すれば、ノッチと小膨出部との間を境にして蓋体が屈曲される。

【 発明の効果 】

【 0 0 1 2 】

以上のように、この発明によれば、蓋体を容器本体に対する閉鎖状態から開放させる場合、蓋体の嵌合部を容器本体のフランジ部への外嵌状態から簡単に離脱させることができ、蓋体を片手操作で容易に開放させることができる。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 1 3 】

【 図 1 】 参考形態の容器を示す分解斜視図。

【 図 2 】 図 1 の容器の容器本体に蓋体を閉鎖した状態を示す断面図。

【 図 3 】 図 2 の一部を拡大して示す部分断面図。

【 図 4 】 実施形態を示す蓋体の一部平面図。

【 図 5 】 同じく一部斜視図。

【 図 6 】 同じく一部断面図。

【 図 7 】 蓋体を開放操作した状態を示す一部断面図。

【 発明を実施するための形態 】

【 0 0 1 4 】

以下に、この発明の参考形態を、図 1 ~ 図 3 に基づいて説明する。図 1 及び図 2 に示すように、この参考形態の容器 1 1 は、ポリプロピレン、ポリスチレン、ポリエチレン、ポリエチレン・テレフタレート等の合成樹脂シートよりなる上面を開口したほぼ碗状の容器本体 1 2 と、その容器本体 1 2 と同じ材質または異なる材質の合成樹脂シートよりなるほぼ円板状の蓋体 1 3 とから構成されている。そして、この蓋体 1 3 が容器本体 1 2 の開口

10

20

30

40

50

部に脱着開閉可能に取り付けられて、容器本体 1 2 の開口部が閉鎖されるようになっている。

【 0 0 1 5 】

前記容器本体 1 2 の開口周縁には断面ほぼ横 L 字状のフランジ部 1 4 が一体に突出形成され、そのフランジ部 1 4 の周壁外面には環状の係合凹部 1 4 a が下方へ向かって折り曲げ形成されている。蓋体 1 3 の外周縁には嵌合部 1 5 が形成され、その嵌合部 1 5 は、前記容器本体 1 2 のフランジ部 1 4 の上面に対向する環状段差部 1 5 b と、その環状段差部 1 5 b の外周部分から下方へ向かって折り曲げ形成された環状の係合突部 1 5 a となっている。そして、容器本体 1 2 の開口部に蓋体 1 3 を取り付けたとき、嵌合部 1 5 がフランジ部 1 4 に外嵌されて、環状段差部 1 5 b がフランジ部 1 4 の上面に接するとともに、係合突部 1 5 a が係合凹部 1 4 a に係合されて、蓋体 1 3 が容器本体 1 2 に対する閉鎖状態に所要の強度で止着保持されるようになっている。

10

【 0 0 1 6 】

図 1 ~ 図 3 に示すように、前記蓋体 1 3 の嵌合部 1 5 の環状段差部 1 5 b から係合突部 1 5 a にかけて蓋体 1 3 の周壁外面には、屈曲部としての膨出部 1 6 が外方へ向かって膨らむように形成されている。この膨出部 1 6 は全体の輪郭がほぼ球殻状をなすように形成され、その外面の両側には一对の窪み部 1 6 a が内部空間側に向かって突出するように形成されている。膨出部 1 6 の下端両側縁と嵌合部 1 5 の周壁下端縁との間には、平面ほぼ三角形状の一对のヒレ部 1 7 が接続形成されている。

【 0 0 1 7 】

20

そして、図 3 に鎖線で示すように、蓋体 1 3 を容器本体 1 2 に対する閉鎖状態から開放させるとき、この膨出部 1 6 を上方へつまみ上げれば、膨出部 1 6 の後部側において環状段差部 1 5 b がフランジ部 1 4 の上面の上面位置あるいはその近傍位置の部分を支点 P として、そのフランジ部 1 4 から離間する方向へ屈曲変形させる。これにより、ヒレ部 1 7 を介して嵌合部 1 5 がフランジ部 1 4 の上面から持ち上げられ、そのフランジ部 1 4 に対する外嵌状態から離脱されるようになっている。

【 0 0 1 8 】

次に、前記のように構成された容器 1 1 の作用を説明する。さて、この容器 1 1 に惣菜等の収容物を収容する場合には、図 1 に示すように、容器本体 1 2 の開口部を開放した状態で、その容器本体 1 2 内に収容物を収容する。その後、蓋体 1 3 を容器本体 1 2 の開口部に被着すると、蓋体 1 3 の嵌合部 1 5 が容器本体 1 2 のフランジ部 1 4 に外嵌されるとともに、係合突部 1 5 a が係合凹部 1 4 a に係合されて、蓋体 1 3 が容器本体 1 2 に対する閉鎖位置にほぼ密封状態で所要の強度で止着される。

30

【 0 0 1 9 】

そして、蓋体 1 3 を閉鎖状態から開放させて、惣菜等の収容物を取り出す場合には、図 3 に鎖線で示すように、蓋体 1 3 の外周の膨出部 1 6 をつまみ上げれば、蓋体 1 3 の嵌合部 1 5 がフランジ部 1 4 の上面位置あるいはその近傍位置の部分を支点 P として、フランジ部 1 4 から離間する上方に向かって屈曲変形させる。すると、ヒレ部 1 7 を介して嵌合部 1 5 の手前側がフランジ部 1 4 の上面から持ち上げられ、デッドポイントを越えてその持ち上げ位置に保持され、係合凹部 1 4 a を含むフランジ部 1 4 に対する外嵌状態から離脱される。よって、この状態で膨出部 1 6 やヒレ部 1 7 を持って、蓋体 1 3 を容器本体 1 2 上から容易に取り外して、容器本体 1 2 の開口部を開放させることができる。

40

【 0 0 2 0 】

以上のように、膨出部 1 6 を上方へ屈曲させるのみで蓋体 1 3 を開放可能な状態にすることができ、蓋体 1 3 の開放操作を片手で、かつワンタッチで行うことが可能になる。なお、この参考形態では、膨出部 1 6 に一对の窪み部 1 6 a が形成されているため、その窪み部 1 6 a を持って、蓋体 1 3 を開放することが可能である。また、窪み部 1 6 a により膨出部 1 6 の剛性を向上できる。

【 0 0 2 1 】

(実施形態)

50

次に、この発明の実施形態を説明する。すなわち、図４～図７に示すように、この実施形態においては、膨出部１６の窪み部１６ａは、大きめのものが一つ形成されているだけであって、その窪み部１６ａが同膨出部１６の前面に形成されている。また、膨出部１６の後部側に位置する頂部には、その頂部よりさらに高い頂部を有する小膨出部３１が形成されている。

【００２２】

さらに、前記小膨出部３１と近接して、蓋体１３の環状段差部１５ｂには、ノッチ状の凹部３２が形成されている。従って、この実施形態においては、膨出部１６の部分をつまんで図５及び図６の矢印Ｑ方向に向かって上向き方向への力を加えると、前記凹部３２の内奥部３２ａと、小膨出部３１の後縁３１ａとに集中応力が発生して、その内奥部３２ａ及び後縁３１ａを含むそれらの間の部分において蓋体１３のヒレ部１７が膨出部１６の部分を中心に上方へ屈曲して容器本体１２から浮き上がる。この場合、蓋体１３は、凹部３２の内奥部３２ａと、小膨出部３１の後縁３１ａとの間の部分を境にして左右にも屈曲される。

10

【００２３】

このため、この実施形態においては、片手操作による蓋体１３の開放をいっそう確実に行うことができる。

【００２４】

なお、前記実施形態において、容器本体１２の外周にヒンジ部を介して蓋体１３を一体に連結形成し、蓋体１３のヒンジ部と反対側の外周に膨出部１６を形成して具体化することも可能である。

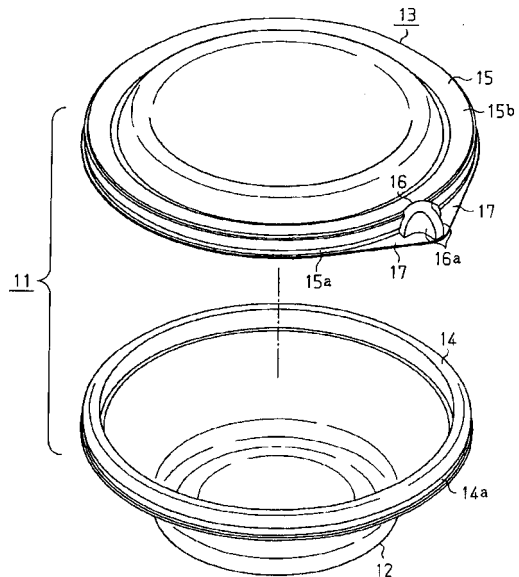
20

【符号の説明】

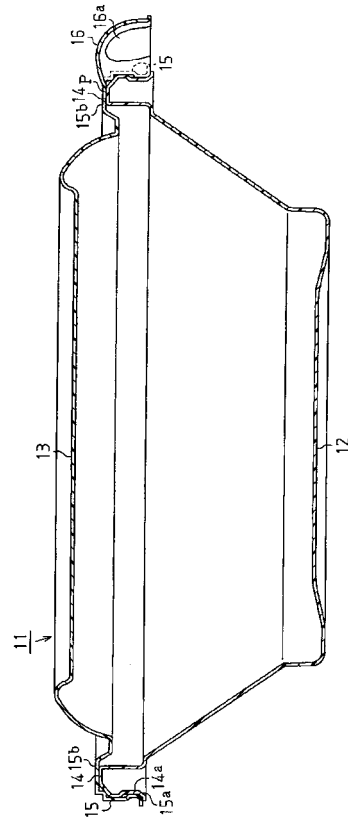
【００２５】

１１…容器、１２…容器本体、１３…蓋体、１４…フランジ部、１５…嵌合部、１５ａ…係合突部、１５ｂ…環状段差部、１６…屈曲部としての膨出部、１６ａ…窪み部、３１…小膨出部、３２…凹部、Ｐ…支点。

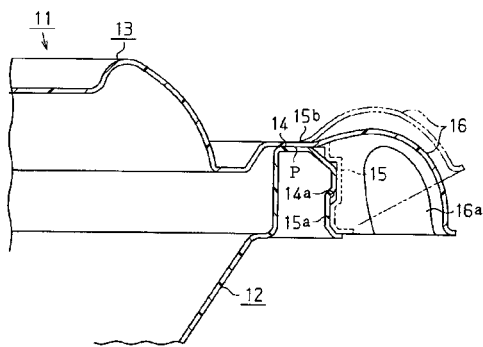
【図 1】



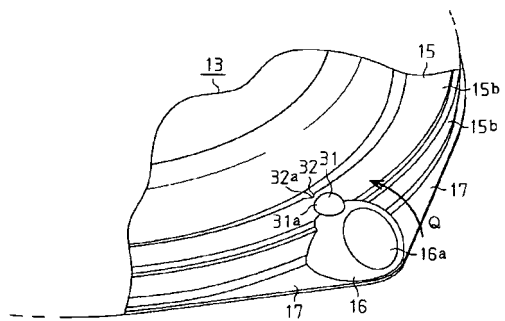
【図 2】



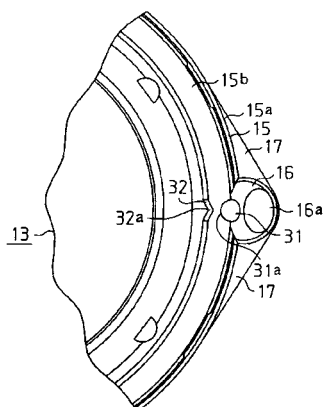
【図 3】



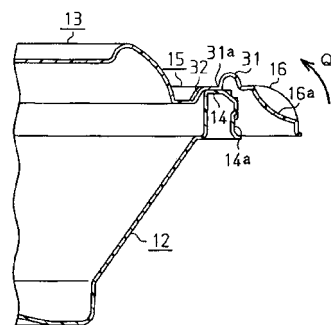
【図 5】



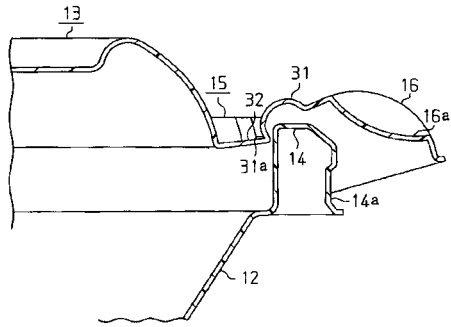
【図 4】



【図 6】



【図 7】



フロントページの続き

F ターム(参考) 3E084 AA06 AA12 AA24 AA25 AA26 BA01 CA01 CC03 CC04 CC05
DA01 DB13 DC03 DC04 DC05 FA09 FC07 GA08 GB12 JA20
KA20